

30年度 学校評価

自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立勝呂小学校
-----	-----------

- 「自己評価」とは、本校の教職員がつけた評価となります。
- 「学校関係者評価」とは、学校関係者評価委員会がつけた評価となります。
- 「共通項目」とは、坂戸市教育委員会より指定された市内共通項目です。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・教職員の参画意識が高く、様々な活動に積極的に取り組んでいる。 ・前年度の反省をもとにした行事計画などが提案されるなど改善事項が生かされた。	A	・「勝呂小だより」や学年通信を通して、学校が目指したい姿が理解できる。また、様々な行事からも勝呂小らしさが伝わってくる。 ・昨年度の反省をもとにした行事計画などが提案されるなど、改善が生かされていると思います。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	・引き渡し訓練や避難訓練などを計画的に行い、その反省を次に活かそうとしている。 ・事故やトラブル等に対して、管理職を中心とした組織的な対応ができています。 ・報告・連絡・相談の徹底をより一層図っていく。 ・日中、昇降口が開いたままであるが、不審者対策の面も考えていく必要がある。	B	・「メール」にて速やかに不審者情報や天候の影響による通学時への注意喚起等があり、安心できる。 ・各訓練を行いながら、反省を次に活かそうとしている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・勤務時間の把握はできているが、勤務時間超過の解消にはつながっていない。 ・行事の精選に関しては課題である。 ・会議が長引くことが多いので、会議の精選や短時は急務の課題である。 ・年休の計画的な取得に向けた取組があるとよい。 ・学級事務や教材研究の時間が少ない。	B	・実際の教職員方の働き方改革への意識等は知り得ないが、行事については、色々と工夫している姿は見取れる。 ・計画的な年次休暇の取得が必要と思われる。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	・全体やブロックごとの授業研究会を計画的に行い、講師を招聘して研究協議会を行っている。 ・国や県の学力学習状況調査を教務主任を中心に分析して研修会を開き、本校の児童の実態を把握し、改善に向けて努力している。 ・教職員は常に資質向上に努めている。	B	・授業を参観すると、児童達に主体性や対話・共有したり、他社の意見を聞きつつ自ら考えさせる様子などが見える。 ・教職員は、いつも資質向上に努めている姿が見られる。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・算数では、3年生から習熟度別の少人数指導を行い、子に応じた授業を展開している。 ・道徳教育の充実に向けた職員研修会を何度も開き、教職員の資質向上に努めている。 ・命の大切さや思いやりについては、道徳や学活などで日常的に指導している。 ・校長によるお話会でも、命の大切さやいじめの根絶について話し、全児童に啓発し続けている。	B	・校内に「いじめ防止の標語」を掲示したり、授業参観で道徳を多く行い、保護者へ伝えようとする目的も理解できる。 ・日常的に指導を行っているようなので、このまま継続をお願いする。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	C	・運営委員会の朝の挨拶運動や挨拶名人になるための掲示などの効果もあり、大きな声であいさつができるようになってきている。 ・多くのクラスで授業は落ち着いた雰囲気を受けているが、個別の対応が必要となるときもある。 ・時間を意識させるなら、チャイムをもっと活用してもよい。学習規律は今後も充実させたい。 ・家庭へも呼びかけていくことも必要である。	B	・挨拶は個人差があるが、学校全体として取り組む姿がある。児童の笑顔が多いのが印象的である。 ・大きな声で挨拶している姿が見受けられる。家庭でのしつけが大変だと思います。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・教職員の不祥事を防磁するために、倫理確立委員会や資料提供など、様々な取組を行っている。	B	・詳細は知り得ませんが、教職員の方々のご様子から研修等行い、意識向上に努めているのが伝わる。 ・教職員の不祥事防止の取組が見られる。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている。	B	・児童の気持ちを考え、話を聞き、寄り添ってから指導を始める雰囲気が学校全体にあり、ほとんどの教員が実践できている。	A	・児童一人一人に向かう様子が多くの教職員より感じられる。 ・児童の気持ちを考えた指導を行うよう取り組んでいる。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・就学支援委員会や特別支援教育についての研修会、特別支援学校との支援等、計画的に行われている。	B	・持久走大会の時に応援メッセージを書いて校舎裏で一生涯懸命応援している姿は、全児童に対して、保護者に対して大変素晴らしいことで、大変良かったと思っている。 ・特別支援教育体制について、計画的に行っていると思う。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	・安全点検カードは2学期後半になってようやく機能してきた。月ごとにまとめたものがあるとよい。 ・備品の整理は計画的に行われている。 ・石山や外の倉庫など古くなってきているものは修繕も必要である。鍵のない倉庫もあるので心配。 ・廊下のタイルが剥がれているのが気になる。	B	・校内はうかがうたびに、いつもきれいにしているなど思っている。 ・土管山や倉庫などの修繕が必要と思われる。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	・公開授業、各種たより、ホームページなど積極的に情報発信を行っている。学校だよりを月に3回発行し、学校の様子や教育活動を各家庭や地域にしっかりと伝えていく。 ・児童の登校・下校のことや学校行事のことなど、メールの活用を充実させたい。	A	・とても積極的に行っている。保護者が学校に直接行くことで、多くを理解できていくので、今後も機会を増やしていく良いと思います。 ・積極的な情報発信が見られる。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・読み聞かせボランティアやどんぐりの会などの定期的な読み聞かせ、行事などでの学校応援団の活動、「名人に学ぼう」の授業など積極的に地域人材を活用している。 ・不登校の児童に向けて、中学校にいるさわやか相談員さんに定期的に巡回してほしい。	A	・保護者による「旗振り」やボランティアの活動など、よく行っていると思う。 ・もっと地域の方々を活用して良いと思います。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・小中での共通した取組は行っている。6年生が中学校に向いて授業や部活を見学したり、中学校の先生が出前授業をするような取組を実施したい。 ・中学校側が来校することはあるが、小学校側が出向くことがない。 ・9年間を見通した指導がしたい。	B	・中学の試験日に合わせ、ノーゲームデーを行っており、良いと思う。もっと教職員同士が行き来して、その様な授業も参観できるとより良いと思う。 ・6年生が中学入学に向けて、いろいろな取組を行ってほしい。